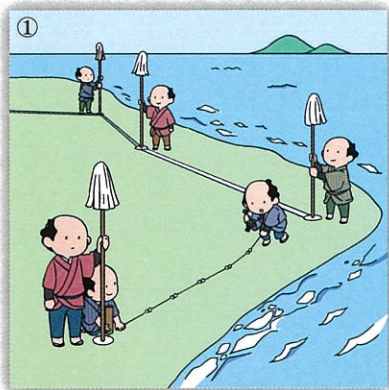


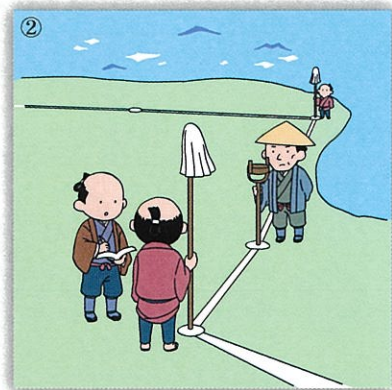
# 「伊能図」の作り方 ①現地調査

## 導線法



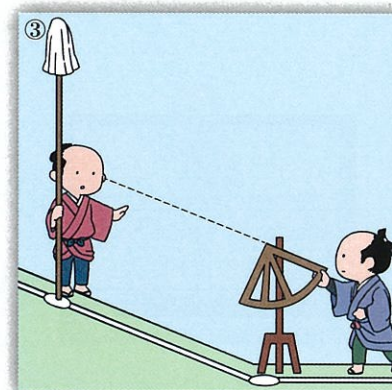
①距離を測る

地形に合わせて目印となる測点に梵天を立て、測点から次の梵天までの直線距離を計測する。



②方位角を測る

①と同時に、測点から前後の梵天のある方位角を計測する。



③傾斜角を測る

坂道など地形の高低差がある場合は、坂道の直線距離と傾斜角を計測して水平距離を算出する。

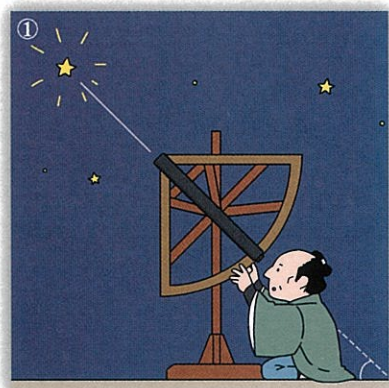
## 交会法



目標物を決めて方位角を測る

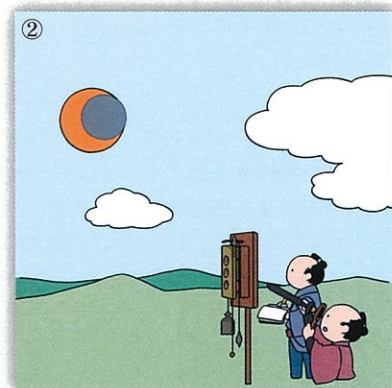
測量先で遠望できる山や島などの方位角を計測し、その位置の特定や導線法の補正を行う。

## 天体観測



①北の空で恒星の高度を測る

測量先で恒星の高度を観測し、江戸で測定した恒星の高度表と比較することで、緯度(南北方向の距離)を求める。



②日食の時刻を調べる

日食を江戸・大坂・測量隊のいる地点の3カ所で同時に観測し、3地点の時差から経度(東西方向の距離)を求めようとした。



③月食の時刻を調べる

月食を江戸・大坂・測量隊のいる地点の3カ所で同時に観測し、3地点の時差から経度(東西方向の距離)を求めようとした。

## 景観描写



沿道の風景を描写する

描写した絵は「あらす鹿絵図」と呼ばれ、山や川、町並みなどの様子が描かれた。